

○ 本校の概要

【本校の状況】行事・部活動・ボランティアかつどうに積極的に参加する生徒が多く、素直な生徒が多い。一方、家庭環境に問題があり、生活習慣の乱れや学習の基礎が不十分で、問題行動を起こす生徒もいる。学校生活は落ち着いている。家庭学習の定着によって、達成感や自己有用感を持つような景観をさせ、意欲的に何事にも取り組ませ、向上心を高めることが課題である。
 【保護者・地域の状況】保護者は協力的と非協力的の二極化の傾向がある。学校に対する支援を惜

○ 自己評価及び学校関係者評価の結果の概要と改善策

大項目	目標	取組内容	目標に対する成果指標
学力向上	児童・生徒一人ひとりの学ぶ意欲を高め、確かな学力を定着させます。	学習カルテを基に児童・生徒と面談し、一人ひとりの学習のつまずきや学習方法について、指導する。	4:「集中して学習に取り組んでいる」とアンケートで回答した生徒の割合が85%以上。
		算数・数学到達度をステップ学習チェックシートで児童・生徒、保護者に知らせる。	3:「集中して学習に取り組んでいる」とアンケートで回答した生徒の割合が65%以上。
		学習指導講師等による算数・数学・英語の補習を実施する。	
		外国語教育指導員を効果的に活用し、外国の方々とコミュニケーション能力の育成を図っている。	2:「集中して学習に取り組んでいる」とアンケートで回答した生徒の割合が50%以上。
		授業改善推進プランを、授業に生かす。	1:50%未満。
		アクティブラーニングに取り組み言語活動を充実させるために、4人組を活用した授業を推進する。	
豊かな心を育む	子ども一人ひとりの健全な自己肯定感・自己決定力を高め、未来への希望に満ちた豊かな人間性を育みます。	小中一貫による教育の視点に立った生活指導の充実により、社会のルールや学校のきまりなどを守ろうとする意識を高める。	4:「校則やきまりを守って生活している」とアンケートで回答した生徒の割合が95%以上。
		道徳教育推進教師を講師とした研修や、国、都及び区の資料を活用した授業等を行う等道徳指導充実のための取組を行う。	3:「校則やきまりを守って生活している」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。
		学校生活調査(メンタルヘルスチェック)の結果よりストレス症状のみられる児童・生徒に対して組織的に対応する。	
		学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見等のための取組を実施する。	2:「校則やきまりを守って生活している」とアンケートで回答した生徒の割合が65%以上。
		問題行動・不登校問題等にかかわる児童・生徒に関するケース会議等を実施する。	1:65%未満。
		QJについて研修を深め、生徒理解および学級経営に活用する。	
体力向上	子ども一人ひとりの身体活動量を増加させて意欲や気力の元となる総合的な体力を育みます。	新体力テストの結果を踏まえ体力向上全体計画を作成し、計画に基づいた体育指導や「一校一取組」運動や「一学級一実践」運動を実践する。	4:「家庭で規則正しい生活を送っている」とアンケートで回答した生徒の割合が80%以上。
		「早寝・早起き・朝ごはん」月間の取組等を通して、児童・生徒や保護者に対し、望ましい生活習慣についての意識啓発を行う。	3:「家庭で規則正しい生活を送っている」とアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。
		給食指導及び教科等における指導を通して、食生活の充実・改善をねらった「食育」を推進する。	2:「家庭で規則正しい生活を送っている」とアンケートで回答した生徒の割合が50%以上。
		体育的行事、部活動、休み時間など様々な機会を通して運動習慣の確立を推進する。	1:50%未満。
教育環境向上	教員の指導力向上、施設の整備や講師・支援員の配置などの学校サポート体制の充実に取り組み、学習環境の向上を図ります。	授業公開日の授業評価を、その後の授業改善に生かす。	4:「先生の教え方はいいのでわかりやすい」とアンケートで回答した生徒の割合が85%以上。
		授業改善セミナー等の研修成果を生かし、主任教諭が助言・支援を行う校内研修等を実施しOJTを充実させる。	3:「先生の教え方はいいのでわかりやすい」とアンケートで回答した生徒の割合が65%以上。
		各種研究発表会等の研究・研修の成果を、自身の授業改善に生かす。	
		学力の定着と学ぶ意欲の伸長を目指し、ICT機器を活用した授業を実施する。	2:「先生の教え方はいいのでわかりやすい」とアンケートで回答した生徒の割合が50%以上。
		校内委員会等を確実に実施し、学校における特別支援教育を推進する。	1:50%未満。
家庭・地域の教育力向上	学校・家庭・地域の果たすべき役割や責任を明らかにするとともに相互の連携を深め、地域とともに子どもを育てる仕組みをつくります。	教育目標・学校経営方針・学校評価等の基本情報、児童・生徒の活動情報等をホームページ等で公開及び更新することにより、積極的に情報を発信する。	4:「地域の一人として地域活動に参加している」とアンケートで回答した生徒の割合が60%以上。
		地域教育連絡協議会において、児童・生徒の姿等の具体的な資料を作成して、評価に必要な学校の情報を適切に提供し、適正な評価を受けるよう努める。	3:「地域の一人として地域活動に参加している」とアンケートで回答した生徒の割合が40%以上。
		学校支援地域本部と連携するなどして、地域力を生かした特色ある教育活動を実践する。	2:「地域の一人として地域活動に参加している」とアンケートで回答した生徒の割合が30%以上。
			1:30%未満。

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
 ○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめたで行う。
 ○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載する。